

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。

この調査は、子どもたちの学力や学習状況等を把握・分析し、今後の教育施策や授業改善に生かすことを目的として実施されています。実施教科や質問項目が限られていることから、調査結果は子どもたちの学力や学習状況のすべてを示すものではありませんが、三木市の教育の成果や課題を考えるための重要な資料の一つです。

三木市教育委員会では、三木市がめざす教育が子どもたちの姿や学びにどのように表れているのかという視点から結果を捉え、今後の授業改善や学校づくりに生かしてまいります。

また、学校と家庭が子どもたちの育ちや学びについて共に考えるきっかけとし、三木市がめざす「主体性・協働性・創造力」を育む教育を一層推進してまいります。

令和8年9月
三木市教育委員会

全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、子どもたちの意識や学校生活、生活習慣などについて尋ねています。

各グラフは、質問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合を示しています。

※調査結果の表記について

全国と比較して5ポイント以上高い場合を「上回る」、差が5ポイント未満の場合を「同程度」、5ポイント以上低い場合を「下回る」と表記しています。

また、過年度の傾向については、各年度で調査対象となる児童生徒が異なることに留意しつつ、三木市全体として継続して見られる傾向を捉えるための参考として分析しています。

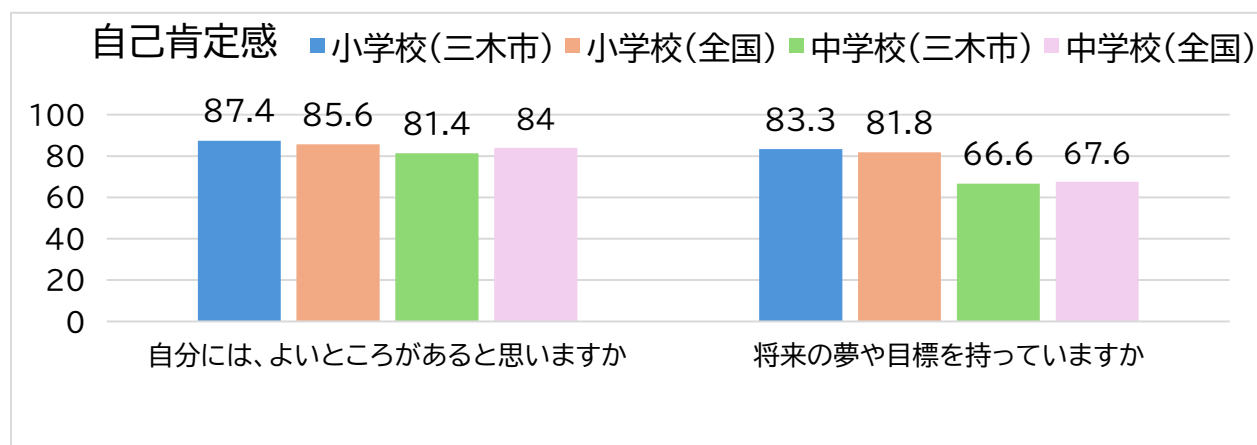
三木市がめざす教育と子どもたちの姿（質問紙調査の分析）

三木市では、予測が困難な未来を自分らしく生き抜いていくために、社会の変化に主体的に向き合い、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力を育むことが大切だと考えています。そこで、三木市の学校教育では「主体性」「協働性」「創造力」の育成に取り組んでいます。本資料では、質問紙調査の項目のうち、特に、「主体性」

「協働性」と、その基盤となる「安心して学ぶことのできる学校環境」「学びを支える生活基盤」に関わる項目を中心に、成果と課題を整理しました。

主体性

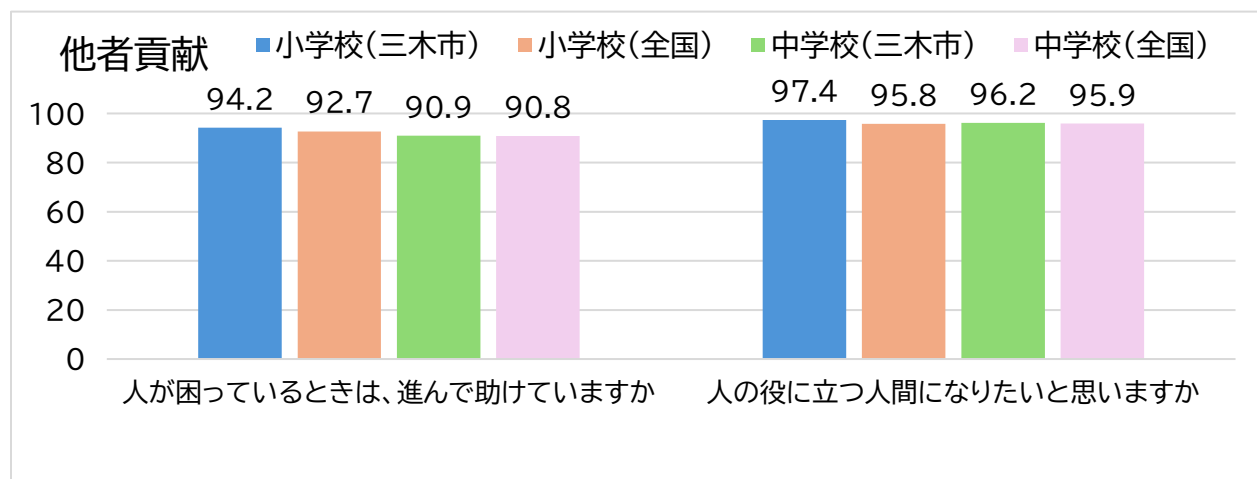
「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「学校に行くのは楽しい」などの項目から、自分自身を肯定的に捉え、目的や意欲をもって生活・学習しようとする姿を捉えます。



「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童生徒は、小・中学校ともに80%以上でした。一方、「将来の夢や目標を持っている」については、中学校の肯定的回答の割合が小学校より低く、過年度にも同様の傾向が見られます。こうした結果を踏まえ、日々の授業や学校行事等において、一人一人が自分のよさや成長に気付き、目標をもって挑戦できる機会を充実させます。また、学びや活動を振り返り、自らの成長や次の課題を捉えることができるようにすることで、主体性の育成につなげます。

協働性

「困っている人を進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「人と違う意見を言っても否定されない」などの項目から、他者を尊重し、互いの違いを認めながら共に学び、生活しようとする姿を捉えます。

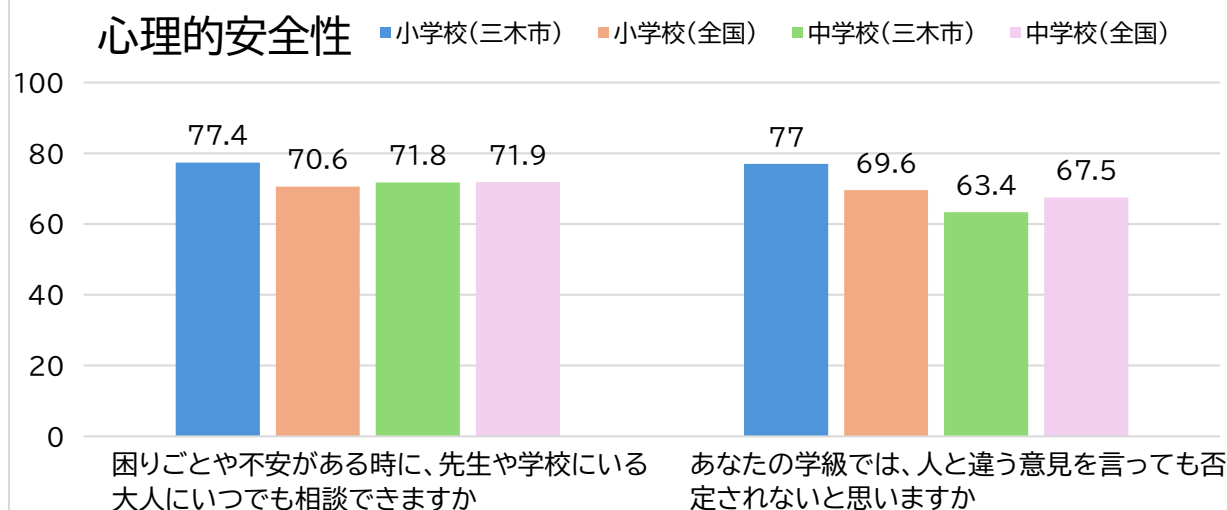
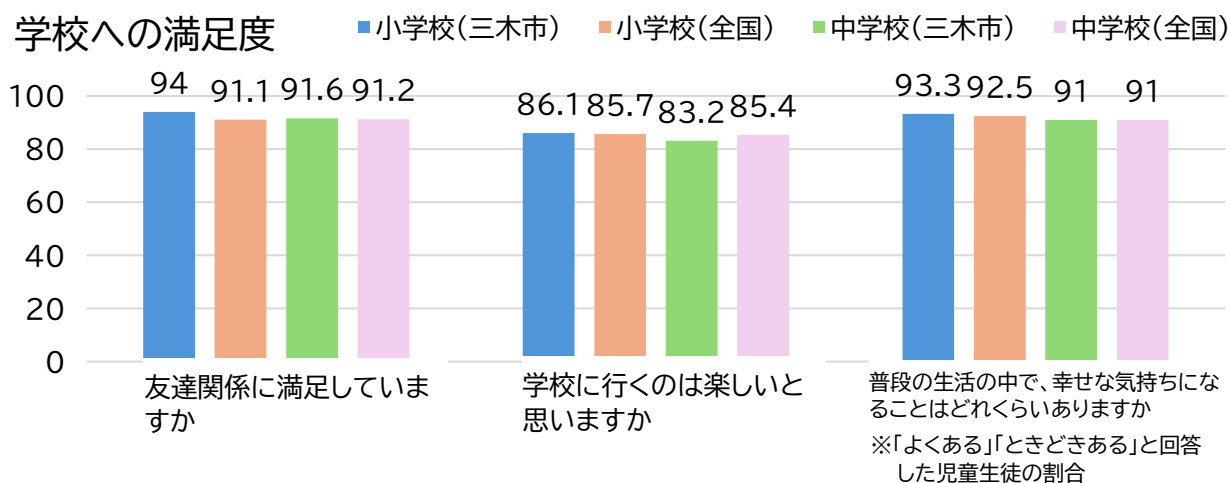


「困っている人を進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」といった他者貢献に関する意識は、小・中学校ともに90%を上回る高い水準でした。

これらの結果から、他者を大切に、誰かの役に立ちたいと考えている児童生徒が多いことがうかがえます。こうした意識を、仲間と考えを伝え合い、互いのよさや違いを生かして課題を解決する「協働的な学び」につなげることが大切です。自分の考えや学びが仲間の学びにつながることを実感できるような学習活動の充実を図ります。

安心して学ぶことのできる学校

「困ったときに先生や学校の大人に相談できる」「友達関係に満足している」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」などは、三木市の進める「すべての子どもが今を幸せに感じる学校づくり」を考えるうえで、重要な指標です。

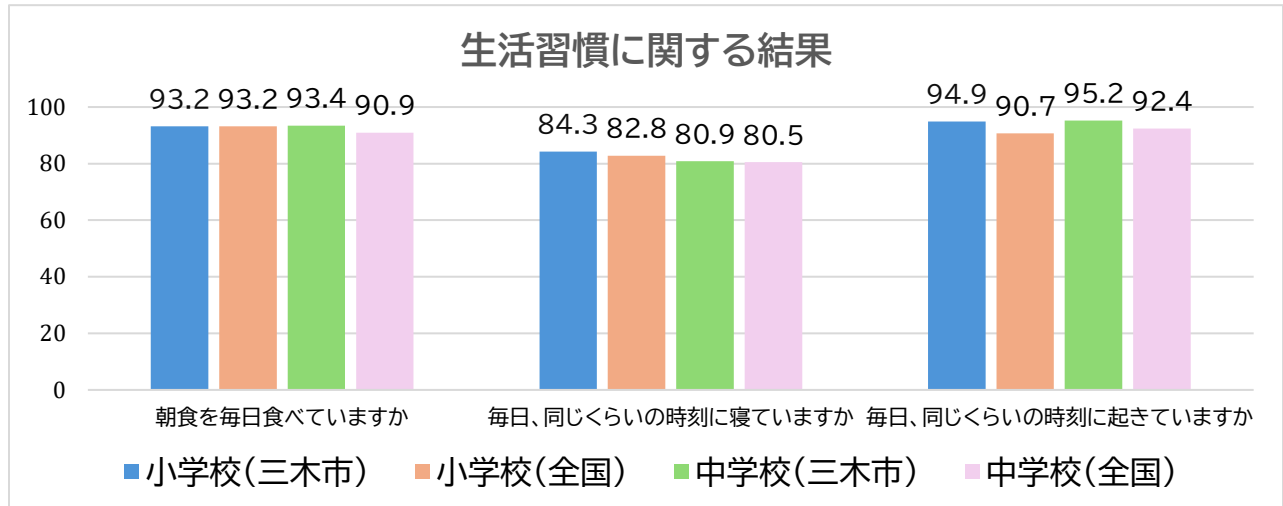


「困ったときに先生や学校の大人に相談できる」「友達関係に満足している」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」などの項目では、多くの児童生徒が肯定的に回答しています。これらの結果から、学校生活や人とのつながりを肯定的に捉えている児童生徒が多いことがうかがえます。

一方で、「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」について、中学校の肯定的回答は63.4%でした。自分の考えを安心して表現し、対話を通して学びを深めるためには、互いの考えや違いを認め合える学級・授業づくりが重要です。すべての児童生徒が安心して自分の考えを伝え、他者の考えに触れながら学ぶことのできる環境づくりを一層進めます。

生活習慣

朝食を食べることや睡眠のリズムなどは、子どもの学びや成長を支える重要な生活基盤です。ここでは、三木市の子どもたちの基本的な生活基盤について捉えます。



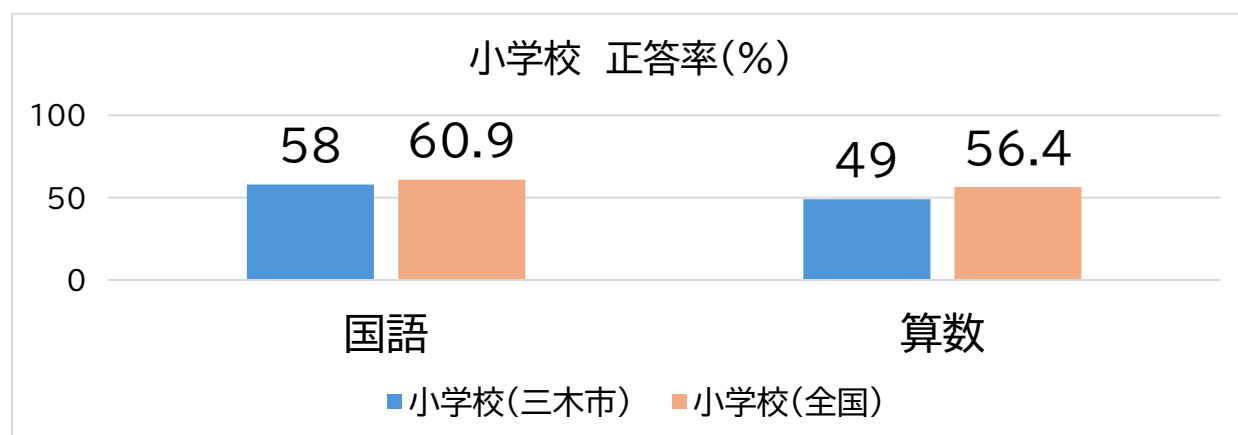
朝食の摂取や就寝・起床時刻など、基本的な生活習慣に関する項目は、全国と同程度の状況でした。生活習慣は、子どもたちの心身の健康や学びを支える大切な基盤です。今後も学校、家庭、地域がそれぞれの役割を生かしながら連携し、子どもたちがよりよい生活習慣を身に付けられるよう支えていくことが大切です。

教科に関する調査の結果について

本年度は、小学校で国語・算数、中学校で国語・数学・英語の調査が実施されました。各教科では、基礎的な知識・技能だけでなく、それらを活用して考え、判断し、表現する力が一体的に問われています。

具体的には、漢字や計算などの基礎・基本、文章や図・グラフなどから必要な情報を読み取る力、複数の情報を関連づけて考える力、論理的に問題を解決する力、根拠を明確にして説明したり自分の考えを表現したりする力などが問われました。

中学校英語は、「聞く・読む・書く・話す」の4技能を対象に、コンピュータを使用したオンライン方式で実施されました。音声や動画を用いた出題に加え、マイクを使ったスピーキングやキーボードによる文字入力でする問題も出題されました。



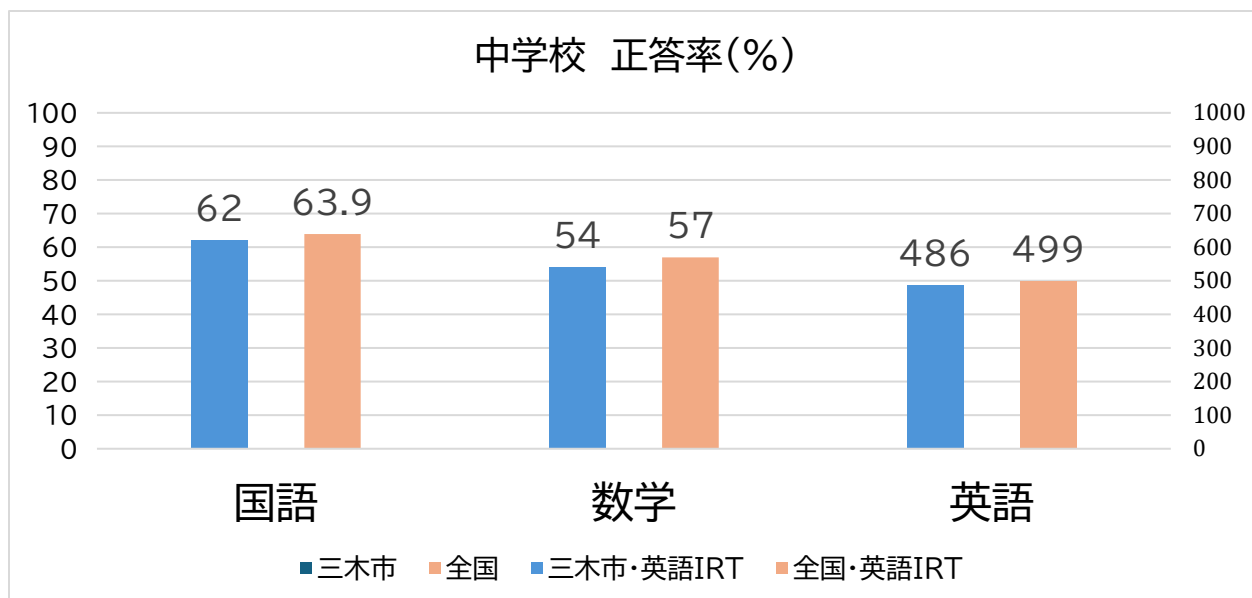
国語科は、全国と同程度、算数科は全国を下回る結果でした。個々の問題の正答状況を見ると、基礎的な知識・技能や、身の回りの表・グラフなどから情報を読み取る問題には一定の理解が見られました。一方、文章全体を捉えて複数の情報を関連付けて考えることや、数や図形の仕組みを捉え、根拠を明確にして説明することに課題が見られました。

小学校 国語

イラストと文章を関連付けて分かりやすい説明文にする問題や、自分の経験と結び付けて文章を書く問題で一定の理解ができています。一方、話し合いの文脈を踏まえ、目的に応じて情報を整理・判断する問題に課題が見られました。文章の全体像や流れを念頭に置き、情報を関連付けて考える力の育成を図ります。

小学校 算数

身の回りのグラフや図表から情報を正しく読み取る力は定着しています。一方、立体の体積や小数の計算、数直線上の目盛りについて考える問題など、「数の仕組み」を頭の中でイメージする力に課題が見られました。また、複数の表から数値を取り出して説明する力にも課題があります。複数の要素を関連付けて論理的に説明する活動を充実させます。



IRT（項目反応理論）スコアとは、問題の難易度などを考慮して算出する学力の指標です。結果は「500」を基準とした得点で示され、出題される問題が違って同じ尺度で比べられるようになります。詳細は、文部科学省HPをご覧ください。

https://www.mext.go.jp/content/20250710-mxt_chousa02-000043584.pdf

国語科、数学科、英語科はいずれも全国と同程度の結果でした。個々の問題の正答状況を見ると、基礎的な知識・技能や、表やグラフなどから必要な情報を読み取る問題には一定の理解が見られました。一方、複数の情報を比較・関連付けて読み解くことや、根拠を明確にし、自分の考えを整理して言葉や式などで説明・表現することには、各教科に共通する課題が見られました。

中学校 国語

文脈に即して正しく漢字を書くことや、文章の中心的部分と付加的な部分を判断することはできています。課題としては、図や表など複数の情報を見比べて正確に読み解く力が挙げられます。与えられた条件に合わせて情報を整理し、自分の考えをまとめる力の育成に向け、読解指導の充実を図ります。

中学校 数学

表やグラフ（箱ひげ図など）から必要な情報を正しく読み取る基礎力は身に付いています。しかし、見つけた規則性を文字式や文章で表したり、グラフが表している意味を自分の言葉で説明したりする問題に課題が見られました。「なぜその答えになるのか」を数学的な言葉や式を使って説明し合う協働的な学習を進めます。

中学校 英語

日常的な話題の短い文章を読んだり書いたりする基礎的な英語力は身に付いています。一方、過去の出来事を交えて「まとまりのある長い文章」を書くことや、社会的な話題の英語音声から「大まかな要点」を聞き取ることは課題が見られました。自分の考えを整理して表現する活動や、多様な話題の全体像を捉える学習を充実させます。

今後の取組について

本年度の調査結果からは、他者を大切に、学校生活を肯定的に捉えている子どもたちの姿が見られます。

一方で、「自分の考えを安心して表現すること」や、「複数の情報を関連付け、根拠をもって考えを表現すること」には課題が見られます。

これからの社会では、身に付けた知識や技能を活用しながら、自ら考え、多様な考えをもつ人々と対話し、協働しながら、よりよい考えをつくり出していく力が求められます。三木市がめざす「主体性・協働性・創造力」を育むためにも、子どもたちが「安心して自分を表現できる環境」の中で、「自ら深く考え、根拠をもって他者に伝える力」を伸ばしていくことが大切です。

今後は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、子どもたちが自ら考え、仲間との対話を通して考えを広げたり、深めたりしながら、自分の言葉で表現する学びを一層充実させていきます。

そのため、正解を求めるだけでなく、「なぜそう考えたのか」「どのように考えたのか」という思考の過程を大切に、互いの考えを伝え合い、比較したり関連付けたりしながら考えを深める学習を進めます。

また、文章や図、表、グラフなどの複数の情報を関連付け、必要な情報を選び、根拠を明確にして考えを表現する学習の充実を図ります。

こうした学びを通して、子どもたちが安心して自己表現し、自ら学び、他者と協働しながら新たな価値を創り出していくことができるよう、「主体性・協働性・創造力」を育む教育を一層推進してまいります。

今後とも、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を生かしながら連携し、子どもたちの育ちと学びを共に支えていただきますようお願い申し上げます。